

1 学校として目指す授業

「児童の主体的な学びを大切にした授業」「分かりやすい授業」

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・全国と比較し、国語・算数の全領域で平均を下回っている。国語の問題別正答率を見ると選択式はマイナス9.4ポイントに対して、短答式はマイナス22.7ポイント。記述式はマイナス17.8ポイント。算数でも、記述式の問題でマイナス19.4ポイントだった。国語・算数ともに知識・技能に比べ、思考・判断・表現を問う問題の方が全国平均との差が大きく課題であるといえる。	・全国と比較し、生活習慣は整っている。また自己肯定感も高く、周りの大人に相談したり、頼ったりすることもできている。さらに、学校生活も充実していると感じている。 一方で、授業以外での学習時間や読書の時間が極端に少なく、学習の定着につながらない様子がある。また、既習事項を生かして学習することが難しい様子が見られる。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析（小学校4～6年生）

「各教科（国、社、算、理）の授業内容に対する理解の程度に関して」は、東京都の数値を下回っている。特に5、6年生の国語と算数において、その差が顕著である。一方で、「各教科の学習がどのくらい得意ですか」という問いに対し、国語、社会、理科の回答内容は東京都の数値と拮抗しているものの、算数の数値が大きく乖離しており、本校の児童が特に算数に苦手意識を強くもっていることが読み取れる。「学習の進め方（国語）」に関する問いについては、概ね東京都と近似値となっているが、「分からない言葉があればすぐ調べるようにしている」の回答が大きく下回っている。また、「学習の進め方（算数）」では、言葉や公式の暗記に大きな不安を抱えていることが読み取れる。そして、本調査で東京都の数値を最も大きく下回っているのが、「学校以外で毎日おおよそどのくらいの時間、学習しますか」という問いであった。例えば4～6年合計値の毎日2時間以上の数値は東京都19.0%に対して、本校は6.4%であり、3分の1程度となっている。このことから、家庭での恒常的な学習時間を確保していくことが本校の喫緊の課題であることが分かり、より効果的な施策の策定が急がれる。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（小学5年生）

全国正答率と比べ、全領域で、下回っている。国語は、マイナス10ポイント以上下回っているが、特に、漢字を書く、言葉の学習（修飾語やことわざの意味の理解）、説明文の内容の読み取り、中心となる言葉を見付け要約する、自分の考えの理由や具体的な例を書く項目が、特に低かった。算数でもマイナス10ポイント以上低く、全体的に基礎的内容の定着が、低い。また、活用の部分では何を問うた問題かを理解できていない児童が多い。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果	
・東京都統一体力テストでは、下学年は力強い動きと巧みな動きを高めることに課題がある。上学年は、巧みな動きと柔軟性、力強い動きを高めることに課題がある。学校全体として、力強い動きと巧みな動きを高める工夫をしていく。	

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・文章を読み取る力が低く、それに伴って「思考力・判断力・表現力」にも課題がある。
- ・根拠を含めた自分の考えをもつことや例を挙げて具体的に話すことが苦手な児童が多い。
- ・昨年度学習したことが身に付いていないことがあるなど、基礎・基本の学習内容が積み重なっていない児童が多い。
- ・課題に粘り強く取り組む児童が少なく、解決の途中であきらめてしまうため、学びが連続しない。

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。 ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。 ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。 ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。 ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。 ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。 評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

学習指導要領国語編における「3〔思考力、判断力、表現力等〕の内容」の「A 話すこと・聞くこと」と「B 書くこと」の指導に重点をおいて、指導をしていく。「事柄の順序」や「理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように」、「事実と感想、意見とを区別する」などを縦断的、横断的に、指導していく。意図的・計画的な学習指導の実施に向け、単元で身に付けさせたい力を明確にした授業を行う。児童の主体的な学びを大切にした指導に向け、自らの考えを深めたり広げたりできる指導を行う。「めあての明確化」「振り返り（自己評価）」を意識した授業づくりを行う。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・相手に伝わりやすくするには、どのような文の構成にするよいかを全体で考え、実践する場面を設ける。				・問題解決に向けた流れが定着できるように、毎時間、同じ進め方で実践する。 ・集団解決をする場面では、児童の考えがつながるように、発言の順を意図的に決める。				・単元同士のつながりや、学年の縦のつながりを意識し、学んだことを生活体験にどう生かしたかを共有する場面を設ける。		・感じたことや思ったことを発表したり、文字や図で表したりしてから、実際に演奏して確かめていく活動を意図的に設定する。						・基本的な動きを身に付けるだけではなく、簡単なまきまりや活動を工夫して、各種の運動を楽しむことができるようにする。 ・児童が多くの人と関わり、仲良く、安全に運動できるルールの工夫を行う。				・道徳的価値について、教材で考え・共有して、終わりにするだけではなく、自分の生活に戻って、価値について広く考えられるようにする。 ・それぞれが考えた、自分のよりよく成長するための考えを学級全体で共有できる時間をたっぷりとする。	
中学年	・自分の考えを書くことやそれを小グループで発表し合う機会を意図的に設定する。		・写真や資料を比べ、から気付いたことから、ペアや小グループなどで発表し合う機会を意図的に設定する。		自分の考えが書けるように見通しをもたせたり、それをペアや小グループで発表したりする機会を意図的に設定する。		・実験・観察を目的意識をもたせるために、予想を大切にすること、予想した理由を書く。結果から振り返りをし、考察させる。				・2～3人のグループで、どのように表現するかについての思いや意図を言葉や音楽で伝え合い、実際に演奏しながら表現の工夫をする学習を意図的に設定する。		・具体的な作品例やワークシートを活用して自分の思いが表現できるように設定する。				・子供のやりたいという意欲を大切に、スモールステップの手でや場の設定をし、運動に親しみ取り組めるようにする。				・道徳的価値について、自分が感じたことをペアや小グループで伝え合いをしてから、全体に共有するような授業の流れを意図的に設定する。	
高学年	・文章を詳しく相手に分かりやすく書くために、使いこなせる語彙を増やす。そのために分からない言葉は辞書で調べる習慣を身に付けさせる。		・ICTを活用し自分の考えや気づきを共有する時間を設定する。必要な写真や資料を選択し、気付いたことから、ペアや小グループなどで発表し合う機会を意図的に設定する。		自分の考えを書くことや自分とは異なる考えを理解できるように、小グループで発表し合い、友達の意見から自分の考えを深める機会を意図的に設定する。		・実験や観察等で扱う事象に課題意識をもたせるために、児童の疑問を大切にしたい問題づくりを行う。発見した事象について多角的に考察しようという意欲をもたせ、結論を導き出せる。				・小グループで、どのように表現するか思いや意図についてイメージしたことを言葉で表してから、実際に演奏しながら表現の工夫をする学習を意図的に設定する。		・低学年、中学年で学んできた技術を表現したいことに合わせて選択し、活用できるような題材を設定する。		・自分事として捉え、生活に生かすことができるように、身の周りの事象を学習で取り上げるようにする。		・動画や技能ポイントが分かる学習資料を準備し、自分の課題に合った運動ができるようにする。 ・実際に合わせてスモールステップの場を用意し、すんで運動しようとする意欲をもたせる。		・ゲーム等を通じて外国語の楽しさに触れ、自然と声が出るようにする。 ・日常生活に出てくる身近なフレーズに触れ、積極的に外国語に親しもうとする意欲をもたせる。		・自分事として捉えた際に考えが深まるよう、日常的にある問題を道徳教育として捉える機会を多く作る。国語や社会、学級活動と関連させ、教科横断的に指導する。	